

「なぜ勉強しなければならないのか」



「こんな公式を覚えても、将来の役に立たないよ。」
「ああ、勉強なんてなければいいのに。」

こうした子どもの声に、どう応じればよいのでしょうか。
進んで学習に取り組む子どもを育てることは、みんなの共通の願いです。そこで、「なぜ勉強をしなければならないのか。」また、「どうすれば子どもたちは、勉強に取り組んでいくか。」この2点について、本稿では、みなさんといっしょに考えてみたいと思います。

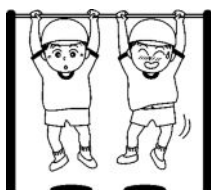
全国学力・学習状況調査の結果

ところで、全国学力・学習状況調査の結果から、

山口県の児童生徒は、全国と比較して、家庭での学習時間が短い

というデータが出ています。多くのご家庭で「どうしてうちの子は、もっと勉強しないのかしら」という悩みがあるのかもしれませんが。進んで学習に向かう子どもを育てていくためには、学校と家庭が、同じ目標をもつとともに、それぞれの役割を明らかにしておく必要があります。

めざす「やまぐちっ子」の姿



そこで、まずは学力の重要な3つの要素から、めざす「やまぐちっ子」の姿を捉えると、次のようになります。

- ◆基礎的な知識・技能をしっかり身に付けた子ども
- ◆知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力のある子ども
- ◆自ら進んで学習に取り組む意欲のある子ども

・学校と家庭の役割

ここで重要なのは、「どれだけたくさん覚えたか」とか「できるようになったか」に止まらず、「覚えたことを使って自分なりに考える」ことや、「考えたことやできるようになったことを伝える」ことです。

また、学習への意欲が学力の重要な要素であることも大切です。

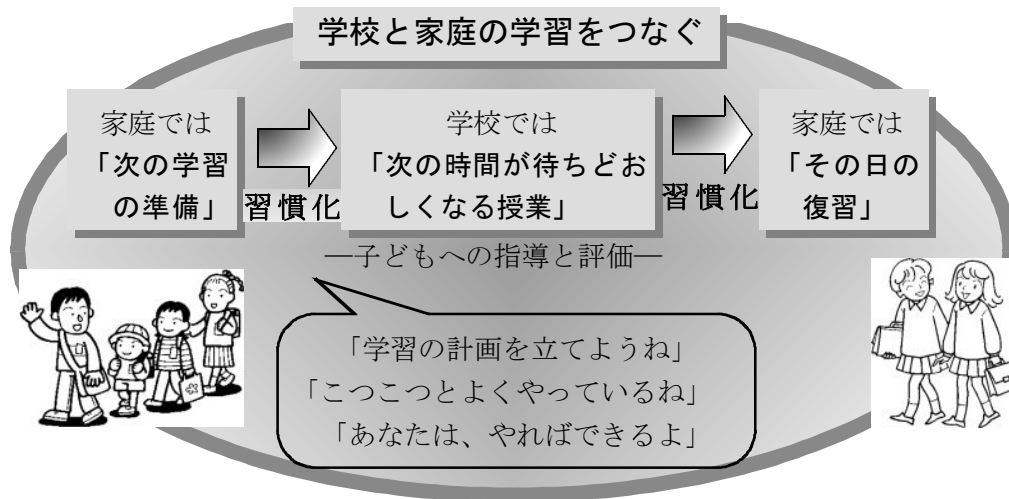
そのために、学校では「やればできる」という達成感、「やってよかった」という満足感のある「次の時間が待ちどおしくなるような授業づくり」に努めます。そして、「その日の授業の復習」や「次の時間の予習」を家庭学習にするなど、学校と家庭の学習がつながるように工夫します。



家庭では、基本的な生活習慣や学習習慣の定着を図りましょう。

こうして、学校と家庭が連携していくことにより、子どもの学力を高くしていきたいと考えています。

目標をもたせ、
適切に評価する



学習への意欲を育てるためには、目標に対する適切な評価を子どもに返していくことが最も重要です。その時のポイントを示します。

- ◆子どもが「がんばっている」と思っていることをほめること
- ◆繰り返し、やり続けている態度を認めること
- ◆以前に比べて成長している場面を見付けて認めること

「やまぐち学習
支援プログラム」
の活用

お知らせ

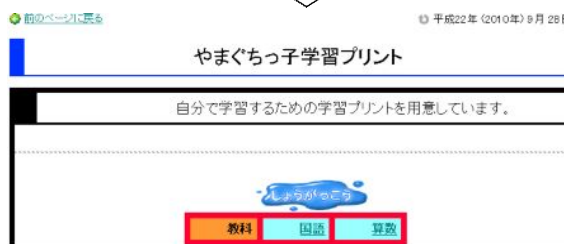
このようなことから、山口県教育委員会では、子どもたちが進んで学習できるように、学習プリントを準備しました。県内の先生方が作成した良い問題を、学校だけでなく家庭からも自由に取り出し、自分の力に合わせて使えるように、公開しています。現在、小学1・2年生の国語・算数の基本問題を掲載しており、今後は、中・高学年の基本問題も提供します。また、面積や割合、漢字など、中学生でも復習に使える内容となっています。

取り出し方は、「やまぐち総合教育支援サイト (<http://shien.ysn21.jp/>)」から「子どものページ」または「保護者のページ」をクリック。



次に、学習情報の欄から、「やまぐちっ子学習プリント」をクリックすると、右のページが現れます。

「国語」か「算数」をクリックすると、学年およそ40シートが取り出せます。



勉強で、夢や可能性を広げる

山口県としての取組、勉強の仕方などについて述べてきました。最後に、肝心要の「なぜ勉強しなければならないか」については、「将来の自分の夢や可能性の枠をできるだけ大きく広げておくとともに、変化の激しい社会を生き抜く力をつけるため」であると考えています。